

平成27年度水戸市協働事業
の選定に係る審査について

答 申

平成 27 年 3 月 16 日

水戸市協働推進委員会

目 次

	ページ
平成 27 年度水戸市協働事業の選定に係る審査	
審査結果及び全体講評	1
各事業の概要及び委員会意見	2
選考過程・基準	10
委員名簿	11

平成 27 年度水戸市協働事業の選定に係る審査

審査結果及び全体講評

【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

推薦する事業

- 外国人を対象とした防災意識啓発事業
- Let' s DANCE!!～ダンスをみんなで楽しもう!～
- 木戸房池ビオトープ整備事業
- 水戸の職人物語広報プロジェクト
- 「外遊び」の力を次世代に～プレイパークを中心とした地域づくり～
- 外国人が買い物し易い商店街づくり

【 全体講評 】

平成 27 年度水戸市協働事業の公募に対しては、7 件の協働事業が提案され、2 月 25 日に公開プレゼンテーションが実施された。このうち、前年度からの継続が 4 事業あり、新規が 3 事業であった。また、7 事業のうち、4 事業が行政課題提示型の提案となり、水戸市の行政課題の解決に向けた市民の高い意識を感じることができた。

提案のあった事業のうち、「外国人を対象とした防災意識啓発事業」「Let' s DANCE!!～ダンスをみんなで楽しもう!～」「木戸房池ビオトープ整備事業」は、協働事業提案制度を活用した協働事業としては、平成 27 年度で最終年度となることから、市の担当課とともに、長期的な展望を持って、事業継続に向けた更なる内容の向上に取り組んでいただきたい。

いずれの事業についても、事業の実施に当たっては、提案団体と市の担当課において十分協議し、補助金の適正な運用及び予算の適切な執行を心掛け、より効率的で透明性のある事業運営に繋げていただきたい。同時に、市民ニーズの把握に努め、適切に事業に反映させるなど、市民の目線に立った事業運営を進めてほしい。

協働事業提案制度は、平成 27 年度で 6 年目を迎えるが、応募数が増加していないのが現状である。本制度が、市民が協働についての理解や関心を深めるきっかけとなるよう、市には、これまで以上に広報や啓発に努めていただきたい。

今後も、様々な分野において、市民活動団体と市が、お互いの特性を生かしながらパートナーとして事業に取り組むことで、相乗効果が生まれ、市民と行政との協働によるまちづくりが更に発展していくことを期待したい。

各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	外国人を対象とした防災意識啓発事業	推薦する (246点)
提案団体 みと男女平等参画を考える会	市の担当課 地域安全課	
事業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 外国人を対象とした防災訓練・防災講座・防災体験ツアーの開催 防災ノートを活用した防災訓練・講座・防災体験ツアーを開催するほか、実際に生活する外国人市民からの意見を検証し、内容の改善を進める。 2 外国人向け防災ノートの改定・印刷配布 水戸市に居住する外国人市民が、災害発生時に、必要な情報が得るための防災ノートを、外国人の方のニーズに応じ改定し、さらなる防災啓発を図る。 	
委員会意見	<p>本事業は、平成27年度の実施で最終年度となるため、平成28年度以降の事業継続も考えながら活動していただきたい。</p> <p>事業継続のためには、地域の自主防災組織との連携が必要不可欠であるとする。単発的な防災講座や体験ツアーの実施だけでなく、各地域の防災に関する取組と連携し、外国人と地域の人々を結びつける、橋渡しの役割を担っていただきたい。また、外国人が地域コミュニティの中に入って、いざというときに助け合い、災害時に柔軟な対応ができるようなしくみを作っていただきたい。</p> <p>防災パンフレットの「やさしい日本語」は、より要点を絞るなど、まだまだ改善の可能性が感じられるので、外国人の意見を積極的に取り入れて、さらに分かりやすいものにしていただきたい。</p>	

提案事業名	Let' s DANCE!!～ダンスをみんなで楽しもう!～	推薦する (265点)
提案団体 W_αLPHA	市の担当課 総合教育研究所	
事業の概要	<p>1 教員向け講習会の実施 各小中学校の体育授業担当教員を対象に、授業内容の実技、児童・生徒たちへの評価の仕方と指導方法についての講習会を実施する。</p> <p>2 ダンス授業支援事業 基本リズムの取り方、ステップ集（基本からの応用）、振り付けの指導、振り付けの制作について指導する。</p> <p>3 ダンステキスト等の作成 基本リズム・ステップ等についてのテキストやDVDを作成する。</p> <p>4 ダンスイベントの企画 ダンス授業での成果を発表するイベントを企画・運営する。</p>	
委員会意見	<p>本事業では、教育の場に自由な発想を取り込み、これまでの授業とは違った雰囲気の中、ダンスの授業が行われている。子ども達が心からダンスを楽しみ、ダンスを通して協調性や柔軟性を身に付けられるよう、引き続ききめ細やかな指導をしていただきたい。</p> <p>また、校内だけではなく、地域に向けたダンス発表会の開催など、保護者や地域の人々の理解を得るための取組を実施していただきたい。</p> <p>本事業は、平成 27 年度の実施で最終年度となるが、事業の長期継続に向けた具体的な方向性を定め、本事業がさらに発展することを期待する。</p>	

提案事業名	木戸房池ビオトープ整備事業	推薦する (253点)
提案団体 特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき	市の担当課 環境課	
事業の概要	<p>1 木戸房池ビオトープの整備</p> <p>木戸房池は、里山の面影を残す平地林に囲まれ、水源が主に湧水であり、多様な生物が生息する貴重な場所であるが、近年平地林は荒れ、大量のごみの不法投棄等が問題となっていた。</p> <p>提案団体と地元とが協力し、子どもたちの環境教育の場及び自然に親しむ人々の憩いの場をつくりあげるため、ごみの処分や里山の整備を進めている。</p> <p>今後は、整備作業のほか、環境講習会、自然観察会等に周辺地域の小中学校や一般ボランティアの一層の活動参加を促し、周知啓発を図り、多様な動植物が生息し、多くの人が自然に触れ合うことができる環境を整備する。</p>	
委員会意見	<p>本事業では、多くの団体の連携・協力のもとで里山の整備を進めている。今後は、整備作業に加えて、教育・観光等の側面から、里山を活用した取組も進めていただきたい。</p> <p>子ども達の環境教育については、教育委員会やPTAとの連携により、学校との繋がりを強化しながら、遠足や自然観察会等を実施し、児童に里山に来てもらうなど、多くの子ども達が参加することで、貴重な里山を次の世代に引き継いでもらえるような活動を進めていただきたい。また、子どもの外遊びを活動事業としている「Play_Park310」との連携も視野に入れていただきたい。</p> <p>里山の観光地化に向けては、山百合の里の復活や、ウォーキングコースの整備など、子どもやその他参加者の意見を踏まえながら、里山活用の取組に力を注いでいただきたい。</p> <p>この事業がモデルとなり、水戸市全体に広がることを期待している。</p>	

提案事業名	水戸の職人物語広報プロジェクト	推薦する (210点)
提案団体 常磐大学地域政策研究会	市の担当課 商工課	
事業の概要	<p>1 中心市街地の魅力づくりに向けての広報活動の実施</p> <p>提案団体及び各商店街、行政の連携により、中心市街地の各店舗への聞き取り調査や、まちなかアンケートにより、各店舗が持つこだわりを発掘する。</p> <p>また、Webサイトの内容やパンフレットの作成のほか、体験型イベントを行い、各商品の情報や店の自慢といった情報をより広く発信する。</p> <p>さらに、提案団体と各店舗による戦略会議を立ち上げ、作成したパンフレット等を活用し、大局的・多角的な視点からまちなかのにぎわい創出に向けた企画を立案、実施していく。</p>	
委員会意見	<p>平成26年度の実施を踏まえ、学生ならではの視点をさらに生かし、本事業が、まちなかのにぎわいに繋がるよう工夫していただきたい。</p> <p>中心市街地の飲食店を取り上げたパンフレットは他にも存在している中で、「職人」という観点を生かして、飲食店以外の店舗にも注目し、各店舗が持つ特徴や魅力を掘り起していただきたい。また、割引特典やクーポン券など、若者の視点からメリットのあるものや、若者が興味を持つような内容を盛り込む工夫も必要である。</p> <p>体験型イベントの実施は、より具体的な内容を検討し、若者が中心市街地を歩いてみたいと思うようなイベントを考えていただきたい。また、広報の方法としては、紙媒体だけではなく、Webサイトも活用しながら事業を行っていただきたい。</p>	

提案事業名	「外遊び」の力を次世代に～プレイパークを中心とした地域づくり～	推薦する (254点)
提案団体 Play_Park310	市の担当課 生涯学習課・公園緑地課	
事業の概要	<p>少子化・核家族化が進み、かつてのように子どもが屋外で群れて遊べる機会が少ない中で、身体的・心理的・社会的発達を保障するために、様々なバックグラウンドを持った子ども達が、誰でも来ることができる子どもの冒険遊び場づくりをサポートし、かつ、「子ども」を中心とした地域の多世代交流を促進させ、幅広い世代の居場所づくりを進め、未来を担う子ども達それぞれのその子らしいより健全な発達を見守り、プレイパーク及び公園を核とした地域の絆を深めていく。</p> <p>1 プレイワーカーの育成（安全対策・救急講習会を含む） 2 プレイパーク開催</p>	
委員会意見	<p>少子化・核家族化を背景に、多世代による子どもの健全な育成が困難になりつつある社会環境の中で、本事業は、子どもの外遊びを推進し、子どもを中心とした多世代交流を目指す事業であり、本委員会としても期待を寄せている。</p> <p>事業実施にあたり、参加する子どもの安全管理を徹底するため、プレイワーカーの育成に力を入れ、担当課とは綿密な話し合いを行って事業を進めていただきたい。</p> <p>平成 27 年度は双葉台で2回のみ実施する計画だが、長期的な展望により、事業の回数・規模・範囲など、多角的に検討し、この活動が水戸市全体に広がるよう、担当課や地域、学校、PTA、子ども会とも連携しながら進めていただきたい。</p> <p>また、木戸房池ビオトープ整備事業を行っている「特定非営利活動法人エコ・グリーンいばらき」と連携し、整備された里山でプレイパークを開催することも視野に入れていただきたい。</p>	

提案事業名	21世紀の「生きる力」ICT活用向上プロジェクト	推薦しない (188点)
提案団体 認定特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場	市の担当課 総合教育研究所	
事業の概要	<p>既存のアプリを使いこなす力ではなく、自らがコンピュータの上で新しいものを作る「プログラミング」を通じて、コンピュータの性質や可能性を理解し、「創造」・「表現」を体験することで、今後の情報化社会で生きる力を養う。</p> <p>1 ファシリテーターの養成講座の実施 ファシリテーターの養成を行うとともに、出張型で提供できる学習プログラムを作成する。</p> <p>2 子どもを対象としたワークショップの実施 ビジュアルプログラミングツール「ビスケット」を活用して、パソコンやインターネット、ゲームなどの仕組みを子どもたちに感覚的に理解してもらい、自己表現とコミュニケーションの幅を広げることによって、子どもの基礎的な創造力を培う。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、プログラミングを通じて情報化社会の中で生きる力を養うことを目的とするもので、斬新な試みとして、先見性・独創性については高く評価する。</p> <p>しかし、水戸市と協働で進めていく事業としては、協働による効果や役割分担が不明確で、事業の対象も限られていることにやや問題が感じられる。市と協働で進めることによって、単独で進めるよりもどのような効果があるのか、どのような役割分担をしていけば良いのか、具体的な事業計画や手法を明確に示していただきたい。</p> <p>また、対象を放課後子ども教室の児童に限定せず、水戸市全体にこの取組が広がるよう、長期的な視野から、年次的な対象範囲の拡大を再度検討していただきたい。</p>	

提案事業名	外国人が買い物しやすい商店街づくり	推薦する (265点)
提案団体 グローバルフェスタいばらき実行委員会	市の担当課 商工課	
事業の概要	<p>グローバルフェスタの開催やフェアトレード商品の普及等の、国際理解・国際協力を推進してきた経験や人脈を生かし、外国人が買い物しやすい商店街づくりを進め、中心市街地の活性化、外国人と共生できるまちづくりを実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「グローバルフェスタいばらき2015 in 水戸」の開催 2 外国人が求めている商品とフェアトレード商品に関するアンケート調査、商店街への情報提供・検討依頼 3 外国人が買い物しやすいお店の指定とフェアトレード商品取扱店を示す「ボード・シール」の作成、配布、設置 	
委員会意見	<p>本事業は、外国人と共生できるまちづくりを進め、中心市街地活性化を目指すという目的で提案しており、イベントの開催やフェアトレード商品の取扱店を増やすなど、様々な取組が計画されている。また、平成28年度以降は空き店舗の活用も視野に入れており、委員会としても期待を寄せている。</p> <p>一方で、事業経費の大半がテント代等のイベント関係経費に充てられていることから、事業の目的に沿って、経費に見合う最大の効果が得られるような事業運営に努めていただきたい。</p> <p>今後、イベント開催の際には、参加する外国人と日本人のコミュニケーションをどう広げていくのかを考え、外国には日本人が知らない知恵・価値・雰囲気があることを参加者が実感し、理解を深めることができるフェスタにしていきたい。</p>	

選考過程・基準

【選考過程】

協働事業提案書をもとに、2月25日に実施された公開プレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審査において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審査した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むに当たって、提案団体と市の担当課とがさらに協議を深めるべき事項について意見した。

【選考基準】

提案書類と公開プレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に沿って採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割にあたる192点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

なお、提案団体の家族、親族、関係者である委員は、公平性の観点から当該提案事業の審査は行わず、他の7名（8名出席のため）の委員による採点の平均点を加算して、得点を調整することとした。

審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分
委員長 金本 節子	茨城大学 名誉教授	学識経験者
副委員長 水嶋 陽子	常磐大学 人間科学部准教授	
大野 寛	認定NPO法人茨城NPOセンター・commons 事務局次長	NPO代表
平沼 賢治	水戸市ボランティア連絡協議会 副会長	ボランティア 代表
金成 滋	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 常任理事	コミュニティ 代表
鹿倉よし江	水戸女性会議 会長	女性団体 代表
欠席 石川 浩之	水戸商工会議所 振興部長	関係団体
欠席 佐藤 平八郎	公益社団法人 水戸青年会議所 理事長	
青木 千鶴子		公募市民
斎藤 寿子		

【任期】

平成 27 年 2 月 25 日から平成 29 年 2 月 24 日まで（2 年間）

【参考資料】水戸市協働推進委員会抜粋

（任期）

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。